

異文化

舞姫はヒースの生える荒野を
それはピエロのように滑稽で
アーチのように軽々と
渡ってゆくのです

首をかしげて僕の腕の下を
それは水滴のように透明で
瞑想のように悩ましく
くぐり抜けてゆくのです

心を揺する栗毛髪
しとしとと降る低い雲に
僕は寒さを感じます
まとわりつくような栗毛髪に

沈んだきらめきの
鈍い灰白色の
逝ける舞姫は
僕を連れてゆくのです
肌の色の違う国へと

(1987.2.2)